



—東地中海地域ニュース—

シリア：米国代表団のシリア訪問

(8月12-13日付ワタン、ハヤート各紙)

8月12-13日付アル・ワタン、アル・ハヤート各紙、外電等は概要以下の報道を伝えた。
(尚、この件についてシリア国営通信社及び政府系各紙は一切報じていない。)

1. 8月12日、ホフ米國中東和平担当特使補佐官、マイケル・モーラーCENTCOM 将軍、米
国国務省及び国防省高官からなる米国代表団が、シリア外務省幹部を含むシリア政府
高官と会談し、シリア・イラク国境をめぐる協力とその他の両国間の協力について協
議を行った。
2. 米国筋によると、この会談の目的は、シリア・イラク両国民の治安と安定強化を目的
とした協力を通じたシリア・米国関係の発展の方策についての継続的協議の一環であ
り、継続的かつ原則的にシリアを関与させるとのオバマ米大統領の政策の更なるステ
ップである。同筋によると、会談は建設的かつ前向きなものであった
(12日及び13日付ワタン紙)。
3. 米国筋によれば、13日、ホフ米中東和平担当特使補佐官は12日に行われたアルヌー
ス外務次官との協議終了後、滞在日程を延長してムアッリム外務大臣と会談し、前回
のミッチェル米中東和平担当特使のシリア訪問での協議事項のフォローを行った。同
筋によると、13日の協議は米国による永続的かつ包括的な和平実現に向けた努力の一
部である(13日付ハヤート紙、外電等)。